

## Renaud Marion の空飛ぶ車のレトロフューチャーな写真シリーズ *Air Drive*、ジュネーブの MB&F M.A.D.Gallery にて公開中

今回 M.A.D.Gallery が展示しているのは、フランス人写真家 Renaud Marion による *Air Drive* シリーズからの想像力溢れる9枚の「空飛ぶ」車の作品です。子供時代の空想から得たヒントと SF 映画やアーティストをインスピレーションに、Marion 氏は自身の未来の乗り物に対するビジョンを、静かに宙に浮くタイヤのない車として描いています。しかしそこには巧みなひねりが投げられています。車が浮遊している描写が確実に SF 的な要素である傍ら、車体そのものはシボレー、メルセデス、ジャガー、アストンマーチン、ポルシェなどを含むクラシックヴィンテージモデルを変化させたものとなっているのです。

レトロ調な未来を想像している図が、一種の過去を振り返る作品を構成しています。自動車産業の全盛期を象徴するアイコン的な車が、飛行可能な乗り物に改造され、ヴィンテージ感溢れるデザインの車体を未来的な時代に勢いよく突入させています。非常に超現実的な作品と言えるでしょう。

1980年代のただ中で成長したことにより、Marion 氏は 2000年になる頃には全員が、スター・ウォーズのランドスピードャーやフランス人アーティスト Moebius の未来的なグライダー操縦機のような、空飛ぶ車を操縦することになっているだろうと信じていました。Marion 氏の宙に浮く車を前進させるという夢はまだ実現していませんが、39歳となった彼はこのシリーズで、子供時代の空想であった「空中」自動車に命を吹き込むことに成功しました。

「子供の頃、私は西暦 2000 年を空飛ぶ車、宇宙船、パラレルワールド、地球上で私達と共存する宇宙生命体、タイムトラベルが存在する時代だと想像していました」と氏は語ります。「皆が宇宙服を身にまとい、レーザーピストルを携帯しているのだと。普通の子供なら夢見る風景だと思います。普通ですよ…普通だといいいのですけど」。

「今日の夢が明日の現実である」という考えと、少年時代に想像した空飛ぶ車を作る目標を糧に、Marion 氏は *Air Drive* シリーズのユニークなコンセプトを展開しました。2012年末にはジュネーブにて、後に宙に浮く機械に改造される最初の自動車の写真撮影を行いました。

頭の中にある「空飛ぶ車」を構成するものは何なのかという概念を捉えつつ、それを明確にするには、2段階から成る「製造」プロセスが必要でした。最初のステップで撮影対象を見つけ出し、撮影場所を特定。2段階目で機器と装備を揃えました。

「ジュネーブで撮影したシリーズの第1部を作成する上では、街中を歩きつつ車を選ぶだけでした。ミニチュアではなく、実物大のモデルを使用したかったのが、路肩に駐車してある車から探し出しました。」と説明。

子供時代に想像した空飛ぶ車に倣って、Marion 氏はそのイメージに最も近かったクラシックカーの写真を撮ることにしました。最初のうちに撮影したモデルにはシボレー・エルカミーノ、メルセデス 300SL・ロードスター、そしてジャガー XK120 が含まれていました。

次に車を撮影するのに適した環境を探さなければならず、それはつまり人が一切いないながらも、特定可能なビルのある空間を見つける必要がありました。由緒正しい車が、20世紀半ばの建築物を背景に、様々なテクスチャーや、ぼかしたりした無彩色で、構図の中央に主役として据えられています。

「1970年代頃の建築物を探しました。それが私にとってのレトロフューチャーの定義だったからです。ビルは堂々としており、巨大で、グラフィックでなければならなかったのです」。

### 詳細お問い合わせ:

Juliette Duru, MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland

メール: [jd@mbandf.com](mailto:jd@mbandf.com) 電話: +41 22 508 10 36.

そして「空飛ぶ」車としての外観を整えるために、Marion氏はデジタルアセンブリ技術を駆使して、クラシカルな美しい車体からタイヤと車輪収納部を消し、車を異なる背景に融合させ、最終的にそれぞれの未来的な設定に適したシーンを演出しました。

これらの写真アナクロニズムは、想像力溢れるこのアーティストが作品をインターネットに投稿した当初から、多くの注目を集めました。クラシックカー愛好家、SFファン、写真や芸術鑑賞者が瞬く間にRenaud Marionのファンとなりました。

この新たな評価により、Marion氏はカーコレクターとのコンタクトが適い、一部の収集家はパリで行われていたAir Driveシリーズのフォローアップ撮影のために非常に希少な車を貸し出してくれました。その中にはメルセデス 300SL・ポールオシア、リンカーン・コンチネンタル、ジャガー・タイプ E、メルセデス 190SL、アストンマーチン DB5、そしてポルシェ 356 がありました。

Marion氏は車だけでなく、カメラも借りました。ライカから最新モデルのライカ S が貸し出され、ヴィンテージ車の写真撮影に活躍しました。

「もし Jules Verne や Leonardo da Vinci が知らず知らずのうちに創造した世界観が、それまで誰も想像し得なかった予測できない未来に我々を慣れさせるためだったということが事実なら、どうでしょう？」と Marion氏は問い掛けます。「それは現在と同じかもしれませんが、SFは至るところで見かけることができます。まさにSFの中でこそ私たちは、宇宙船を飛ばしたり、超能力者と遭遇したり、もしくは単に空飛ぶ車を運転したりする準備をするのではないのでしょうか？」

9作品は白い余白有を含む 128cm x 90cm サイズで、それぞれ8部ずつの限定版（写真自体は 114cm x 76cm サイズ）。9作品のうち3作品は 210cm x 140cm の大きさのものもあり、それぞれ3枚ずつの限定版となっている。

## Renaud Marion の経歴

現在パリで暮らし活動している Renaud Marion は、フランスのアルプス山脈出身の 39 歳の写真家です。

彼の芸術に対する情熱はグラフィティアーティストとして最初に形をなしましたが、グラフィティは消えてなくなることもあります。スプレーによって描かれた自身の作品の永続性を確保する上で、Marion氏はそれらを写真に収めることにしました。写真であればいつまでも保存が可能です。

ロンドンに移ってから、ストリートアートを撮影し続けました。加えてロンドン在住中に、撮影対象の範囲を人物や建築物にまで広げました。そしてフランスに舞い戻った際に、Marion氏は写真撮影のスキルに磨きを掛けようとパリの写真専門学校 EFET に入学しました。

アシスタントとして経験を積むことで、ファッション・広告・インテリア業界での写真撮影の機会を重ね、独立が適うだけの技術を培いました。「少しずつ写真家に近付きました」と本人は語ります。

Marion氏の芸術的インスピレーションは子供時代とSFだけでなく、Terrence Malick や Wes Anderson などといった一風変わった映画監督、Alec Soth や Nadav Kander などの写真家も由来としています。

彼の素晴らしい写真は多数のデザインや旅行雑誌に掲載されており、コミュニケーションエージェンシーや建築事務所などとも共同企画を行っています。

そんなアーティストな彼は、生涯で一度は空飛ぶ車を運転することを望み、未だ潰えない子供心にSF小説に出てくる技術がいつの日か実現することを願っています。

## 詳細お問い合わせ:

Juliette Duru, MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland

メール: [jd@mbandf.com](mailto:jd@mbandf.com) 電話: +41 22 508 10 36.